

実践団体情報

記入日	西暦 2021 年 1 月 15 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
代表者名	近藤 鉄郎
プラン全体のタイトル	教員養成大学の学生を育てる防災教育年間プログラムの開発 —町内防災運動会をととした「地域発」の学び—
電話番号	0566-36-8511
メールアドレス	igaya-s.m.k@agate.plala.or.jp
実践団体の説明	井ヶ谷町内会は、市内でも地域活動が盛んな自治会であり、体育部は町内会の有志によって組織された約 25 名の団体である。体育部が中心となって運営する最も大きな町内行事が防災運動会で、第 40 回記念大会を迎える歴史がある。
所属メンバー	[代表・広報担当] 近藤 鉄郎 (体育部長補佐/LOGOS) [実践担当] 佐々木 由香 (体育部長補佐) [実践担当] 樋江井 守 (体育部長) [統括担当] 生嶋 亜樹子 (山口大学教育学部・准教授)
活動地域	愛知県刈谷市井ヶ谷町
活動開始時期・結成時期	1979 年 (第 1 回町内運動会実施年)
過去の活動履歴・受賞歴	無
プラン全体の概要	○ 本実践は、愛知県刈谷市の北部に位置する、井ヶ谷町 (人口約 5,000 人)の町内会の有志によって組織された体育部を中心とした活動である。町内に災害時の指定避難所でもあり実践の交流先である、教員養成大学(学生・教職員の最大数約 5,000 人)を有する。自宅からの通学生が多いという特徴もあり、町内に対して多くの学生「学内のバス停から来て帰って行くという通過するところではない」「全然関わりが無い」(学生インタビュー)という意識をもっている。 ○ 対して井ヶ谷町には、「井ヶ谷町を好きな方がものすごく

	<p>く多く」(体育部インタビュー)、地域住民と学生との交流が少ない現状を「すぐもったいない」(同)と感じており、「学生さんを自分の町内で育てて、立派に先生になる」(同)、そのことが「双方にとって生きていくうえでの財産になる」(同)ことを期待する、熱い思いがある。</p> <p>○ このように教員養成大学をもつ町内で醸成されてきた、地域にある潜在的な「教育の力」を背景に、地域住民と学生とが平時より顔を知り声を掛け合える関係性を築き、有事の際に助け合えるよう、そのきっかけとしての防災運動会を、実践活動の中心とした。</p> <p>○ 従前は単発のイベントとして学生参加者を募集して実施してきた町内防災運動会を、事前学習会4回(2020年度は新型コロナの影響で学生の入講制限のため実施できず)を含む協働による運営・実施として計画した。活動をとおして、現行学習指導要領で一層重視されている、防災教育の将来的な担い手としての知識・技能を身につけるための支援を行うことを、実践活動の主たる目的とした。</p> <p>○ 地域の教員養成大学の学生の町内防災運動会への参画をとおして、地域住民が防災意識を高めること、指定避難所の運営につながる知見や体験の獲得が期待される。</p> <p>○ 将来的には、町内防災運動会への参画を中心とした地域活動全体を大学の授業の単位として位置づけ、継続的な町内と大学の連携・協働のもと、地域に根ざした防災教育の年間プログラムの開発に取り組む。</p> <p>○ 実践の記録として、省察の機会の少ない地域での活動に対して定期的な聞き取り(インタビュー)を行い、活動への地域の「思い」を集約し、大学側や学生と共有、活用できるようにする。</p>
--	--

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	大学・町内の会議①	体育部インタビュー(準備)	
5月			
6月			(町内防災運動会中止決定)
7月			
8月		体育部インタビュー(準備)	
9月			
10月		体育部インタビュー(準備)	(町内防災運動会実施予定日)
11月	大学・町内の会議②	学生と顔合わせ、意見共有	
12月	大学・町内の会議③	防災競技の開発	
1月		防災競技の開発	防災競技の開発・実践、検討
2月			体育部インタビュー(省察)
3月			町内会インタビュー(省察)

プラン全体の反省点・課題・感想	<p>実践事例の中心である町内防災運動会(10月)が中止となり運営側の町内会のほとんど全ての活動と、交流先の教員養成大学の学生の通学(10月まで)ができず、内容を大幅に変更しながらの実践となった。第40回記念大会中止は残念だが、当初プランの遂行にこだわらなかったことが、結果的には、次年度以降への“思い”を高めることにつながった。同時に、ゆるやかな組織としての町内会(地域)での活動を、非常時にどう継続・存続するかが、新たな課題となった。オンラインで全てを代替できない点も、地域活動の特徴だといえる。</p>
今後の活動予定	<p>2021年度の町内防災運動会(第40回記念大会)へ向けて準備を進めている。次回大会の新しいチャレンジは①大学と共同開発した新規競技の実践②動画配信等による町内会活動の活性化③アウトドア関連企業(LOGOS)との連携の構築である。あわせて、町内会からの長年の要望でもある学生の町内での体験活動(防災運動会の企画運営・参加を含</p>

	む) の単位化 (年間プログラムの開発) にも本格的に取り組む。
--	----------------------------------

実践したプランの内容と成果


記入日	西暦 2021 年 1 月 15 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	1
タイトル	教員養成大学の学生を育てる防災教育年間プログラムの開発—町内防災運動会をととした「地域発」の学び—
実践担当者のお名前	近藤 鉄郎 (こんどう てつお)

実践にかかった金額	円 非公開 (個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	1 ヶ月
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 1 月 26 日 15 時 00 分～17 時 00 分
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	10 人
防災教育の対象者の属性	大学生・教職員/保育士等・地域住民
防災教育の対象者の人数	約 10,000 人 (大学教職員・学生、井ヶ谷町 地域住民)
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 刈谷市 井ヶ谷町
実践を行った具体的な場所 例: ○○小学校体育館	愛知教育大学
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	学生の将来教師として生かすことのできる主体的な活動 町内の住民の「地域の教員養成大学」を含む井ヶ谷への愛着

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の教員養成大学の学生が、町内の防災運動会への参加をととして、防災教育の指導者としての知識・技能を身につけるとともに、学生の地域活動への積極的な参画により地域住民の防災意識の向上を図る。 ・町内防災運動会への参加を中心とした防災教育プログラムを開発し、将来的な授業での単位化へ向けた、大学との連携体制を構築する。
------	---

どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p>[プランの立案（コロナ禍での実践に向けた調整を含む）]</p> <p><u>2020年2～3月</u>：活動報告会后、前年度実践団体の発表や、本実践へのアドバイスを参考に、当初プランとタイトル変更案をメンバーで熟議。</p> <p>大学の担当部局へ協力を打診、10月の運動会へ向けて、年度当初から町内と連携し活動できる学生を募集することを決定（ポスター作成）。</p> <p><u>4月</u>：大学担当部局との会議。防災運動会の実施／中止の2パターンの活動計画を共有する。（学生は年度末より継続して大学への入講制限）</p> <p><u>6月中旬</u>：2020年度の防災運動会(10月予定)の中止が決定。</p> <p>この間（4月～10月）、体育部内での運動会実施へ向けた検討(7月中旬対面での会合実施、その他日常的な情報交換)や、体育部への聞き取り(インタビュー)及び参与観察（4月・8月・9月・10月）を進める。</p> <p><u>10月</u>：年度当初に検討した防災運動会中止パターンの活動（防災関連新競技の開発と実践）へ向けた検討を開始。</p> <p><u>11月</u>：大学担当部局との会議、学生との顔合わせを実施した。</p> <p>大学と町内会役員・体育部とで、町内防災運動会の協働実施に関するビジョンを共有し、プラン実施の具体的な手続きを検討した。</p> <p><u>12月～1月</u>：[活動準備]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度参加学生(1名)との打ち合わせ ・2019年度町内防災運動会の紹介（井ヶ谷町を知る） ・2020-2021年度参加学生による意見交換、防災関連新競技の開発（保健体育講座 縄田亮太講師のゼミの時間に実施） <p><u>1月26日（予定）</u>：[2020年度実践活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020-2021年度参加学生による、新競技の報告・実践 	



	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育部および町内会役員による検討、意見交換 ・ 2021 年度町内防災運動会へ向けたキックオフ <p>2021 年 2~3 月（予定）：実践活動のふり返りと 2021 年度防災運動会実施へ向けた体育部と町内会の意向(思い)について、聞き取り(インタビュー)を実施、実践全体を整理・分析し、大学および町内へ報告する。</p> <p>[参考] 2019 年度町内防災運動会：地域住民約 350 名参加、防災関連競技 8 種目実施（防災リレー、消火設備火消くん体験、防災クイズ等）</p> <p>[第 40 回記念大会ロゴマーク]</p> <div data-bbox="491 757 1038 1016" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> 	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内防災運動会に対する思いを活動の準備段階で大学・学生と共有し、運営への参画の手がかりとして、防災関連の新競技開発を行った。 ・ 町内防災運動会を、単発の行事ではなく年間プログラム（単位化）に展開するための見通しを得た。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会の中止が決まった 6 月の時点では、本実践事例の特徴からも、ハード(機器・技術面)・ソフト(町内会にオンラインがなじむのかという悩み)の両面において、オンラインによる実施導入のハードルが高く、今年度の導入を見送った経緯がある。以降、現在（2021 年 1 月）まで半年余りのオンラインの普及の状況から、今後は対面での実施を前提としつつ、ハイブリッド方式の実施を検討することが必須である。地域の活動ならでのオンライン実施の意義を見い出せるのではないか。 ・ アウトドア用品販売（LOGOS）を展開している市内の企業と連携 	

	し、学生と地域住民が楽しみながら防災を学ぶ場をひろげていきたい。
--	----------------------------------

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	愛知教育大学・地域連携センター、同・保健体育講座 縄田亮太 講師
関係者の説明	町内の教員養成大学、地域連携窓口および体育教育の専門家
関係者の連絡先	0566-26-2129（愛知教育大学地域連携センター）
関係者の名前・団体名	刈谷市立富士松中学校・太田 秀樹 校長
関係者の説明	井ヶ谷町内の中学校、2019年度以前も開会式来賓としての参加有
関係者の連絡先	0566-36-0402
関係者の名前・団体名	刈谷市立富士松北小学校・浅田 敏弘 校長
関係者の説明	井ヶ谷町内の小学校、2019年度以前も開会式来賓としての参加有
関係者の連絡先	0566-36-5414
関係者の名前・団体名	山口大学教育学部／教職センター・生島亜樹子 准教授
関係者の説明	元・地域住民／愛知教育大学講師、参与観察を兼ね体育部活動に参加
関係者の連絡先	083-933-5300（山口大学教育学部・代表）

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手 ①	小・中・高等学校、大学関係者へ
伝えたい内容 ①	本実践は地域発で児童・生徒・学生を育てようという、多くの事例と逆向きの取り組みですが、防災教育だからこそ、そこに面白さと価値があります。地域にある潜在的な「教育の力」を地域防災に発揮する姿を、愛知県刈谷市井ヶ谷町の実践を通じて伝えたいと思います。
伝えたい相手 ②	教師をめざす大学生へ
伝えたい内容 ②	防災教育の指導者としての知識・技能を身につけ、将来赴任した場所で積極的に活動できるよう、今から地域という財産にふれてほしい。
伝えたい相手 ③	防災教育チャレンジプラン事務局、実践団体へ
伝えたい内容 ③	チャレンジプランは1年だけの実践に終わらない、これからもずっと続けていく活動の始まりでした。（その意味で、コロナによる足踏みを焦らず“積極的に”待つこと、同時に新たな方策を模索することは重要）